

豪ドル 2 年ぶり高値、強まる上昇基調への転換サイン

Insights from UBS Asset Management

ポイント

- ・豪ドルは 18 日、一時対ドルで 2 年 2 ヶ月ぶりの 0.79 ドル台、対円で 1 年 7 ヶ月ぶりの高値 89 円台を付けた。
- ・豪州準備銀行 (RBA) は同日に 7 月 4 日の理事会議事録を発表し、市場はタカ派的な内容を好感。
- ・豪ドル相場では、中期的な底入れのサインが強まっており、新たなレンジへの移行の可能性も。

豪ドル上昇、対ドルで二年ぶりの高値圏へ

3 連休明けの 7 月 18 日、豪ドルは昨年春に付けた対米ドルでの高値 0.7835 を上抜けし、二年ぶりの高値水準となる 0.79 台に到達しました。前週に発表された弱い米小売売上高や CPI の発表、加えて米ヘルスケア法案の反対拡大の報道などを受けた米ドル売りの流れが強まる中、豪ドル売りポジションの解消が加速していると見られています。

米ドル売りが加速する中、商品市況の反発も目立ち始め、資源価格の持ち直しが豪ドル高の追い風となっています。豪ドル相場と連動する傾向が見られる鉄鉱石価格も 5 月安値から 10% 以上上昇しています。

加えて、豪州の最大の輸出先である中国が 17 日に発表した一連の主要経済指標が予想を上回り、豪ドルの押し上げ材料になりました。中国 4-6 月期 GDP は前年同期比 +6.9% となり、市場の予想 (同 +6.8%) と政府の今年の成長率目標 (+6.5%) を上回ったほか、同時発表の 6 月分小売売上高、固定資産投資、鉱工業生産も軒並み市場予想を上回る伸びとなりました。

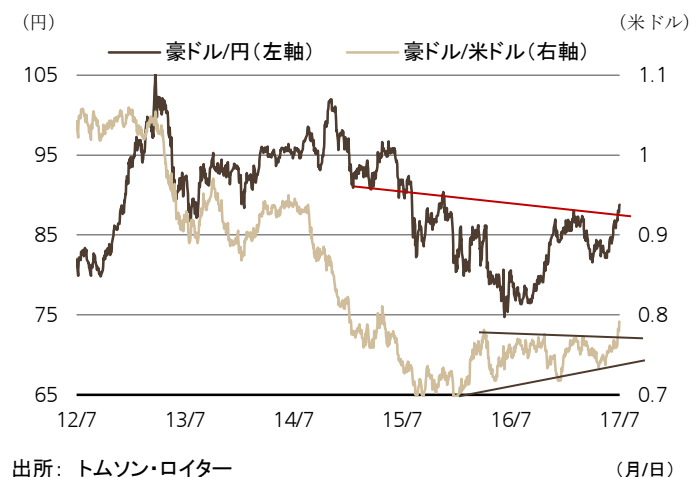
また、豪州では、18 日に 7 月 4 日の RBA 理事会の議事録が公表され、「力強い雇用で賃金予想の下振れリスクの一部が除去」、「豪中銀が世界経済の見通しは堅調さが増している」、「中立的な金利水準は 3.5%」などタカ派的な内容や、「豪ドル高を懸念する表現がなかった」ことなどが市場に好感されました。一方、

RBA は他の中銀に追随 (緩和縮小) する用意はなく、成長およびインフレを巡る見通しを踏まえると、労働市場や住宅市場の状況には引き続き注意深い監視が必要との判断も示しています。ただし、市場はタカ派的なコメントにより注目した模様です。

豪ドルは対円で、1 年 7 ヶ月ぶりの高値圏へ

豪ドルは対円でも、一時 2015 年以來の 89 円台まで上昇しました。米ドルの下落基調が続く中、ドル円相場は軟調な展開となっていますが、米株などリスク資産が堅調さを維持する中、先進国においては相対的に高金利の豪ドル買いに対し、金融緩和策の長期化が見込まれる日本円売りといったキャリートレードは、リスクオン環境で人気を集めています。

■豪ドル相場の推移 (2012 年 7 月 19 日から 2017 年 7 月 19 日)



豪ドル相場見通し、強まる上昇基調への転換サイン

ここ数か月、豪ドルへの弱気な見通しは徐々に転換に向かい、国内景気の拡大継続、インフレ率の底打ち、中国を中心としたアジア経済の堅調さなどを背景に、中期的な上昇基調への期待も聞かれていました。ただし、このタイミングで高値更新は想定外の動きと見られています。

市場の期待が想定より前倒しされ、重要なチャートポイント上抜けの動き（前頁参照）により、豪ドル相場が中期的な見通しを再検討する必要が出てきました。市場における三つの懸念の後退が、豪ドル相場を更なる高値に押し上げるシナリオを本格的に裏付ける可能性があります。

1つ目は、豪米の金利差縮小に対する懸念の後退です。米国金利については、市場は緩やかな利上げへの自信を深めつつあります。一方、豪州金利については、**RBA** が今後金融緩和より引き締めに向かうとの見方へ市場は転換しつつあります。中期的には、豪米の金利差縮小傾向の反転が鮮明化し、対米ドルでの豪ドル上昇を下支えする可能性があります。

2つ目は、中国経済の減速懸念の後退です。中国では年初からの引き締め策に対する懸念が強まりましたが、実体経済は予想を上回る堅調さを維持しています。この背景には、世界的な経済成長といったプラス材料に加え、中国の住宅部門の改善が挙げられます。鉄鋼価格の急上昇や住宅ローンの伸びが改善の裏付けとなっています。加えて、この改善が投機的な取引が多い沿岸部ではなく、内陸部の中規模都市で起きていることもよいニュースです。

また、もうひとつの中国における懸念材料、「資金流出」に対しても追い風が吹いています。米インフレ鈍化、緩やかな米利上げが継続する中、中国が更なる金融引き締めで「資金流出」の阻止に動く可能性が後退し、秋の党大会に向けて波乱材料が減っています。

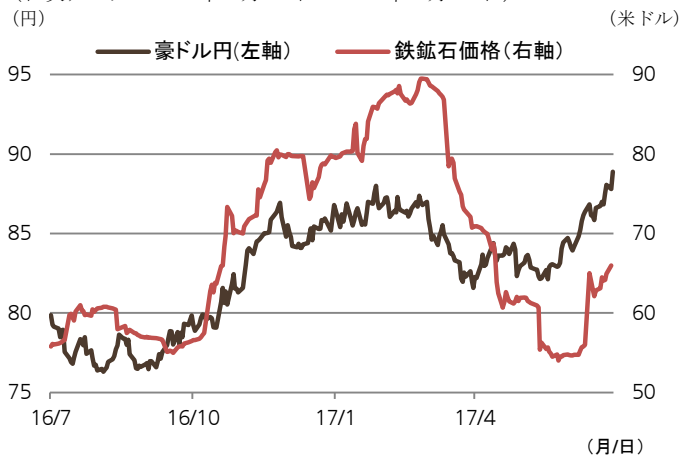
3つ目は、資源価格の失速に対する懸念の後退です。足元、米ドル安の進行を受けて商品市況全般が上昇しています。加えて、前述の中国経済を含めた世界経済の堅調な動きが、鉄鉱石や石炭、銅など資源市況の下支えになっていると見られています。本格的な資源価格の持ち直しとなれば、豪ドルを更に押し上げると見られています。

以上のように投資環境での転換のサインが強まる中、**豪ドル円相場**においては、足元の上昇で強い抵抗線と目されてきた今年2月の高値 **88.18** を上抜けてきました。2016年2月の底値 **77.59** 円を基点とし、既にテクニカル分析における強い底入れサインである逆三尊（逆ヘッドアンドショルダー）による底打ち観測が出ています。次なるターゲットと見られる **2015年12月4日** の高値 **90.71** が視野に入ってきています。

2017年初より、80-90円のレンジ相場が市場で想定されてきましたが、テクニカルな中期的な底固め、高値更新が示唆するように、投資環境の改善の裏付けが増えるに従い、豪ドル円相場は新たなレンジ入りの可能性も強まると見られます。

■豪ドル/円、鉄鉱石価格（スポット）の推移

（日次データ 2016年7月19日～2017年7月19日）



出所：トムソン・ロイター

上記のデータは過去のものであり、将来の動向を示唆、保証するものではありません。

本資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。本資料は、信頼できる情報をもとに **UBS** アセット・マネジメント株式会社によって作成されておりますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。本資料に記載されている内容・数値・図表・意見・予測等は、本資料作成時点のものであり、将来の市場動向、運用成果等を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。

© **UBS 2017**. キーシンボル及び **UBS** の各標章は、**UBS** の登録又は未登録商標です。**UBS** は全ての権利を留保します。